

第4回東海市都市計画マスタープラン 策定委員会議事録

(令和5年(2023年)9月4日開催)

東海市都市建設部都市計画課

第4回 東海市都市計画マスタープラン策定委員会 議事録

日 時	令和5年（2023年）9月4日（月） 午後2時00分から午後3時30分まで			
場 所	東海市役所（501会議室）			
委 員 (敬称略) <input type="checkbox"/> 出席 <input checked="" type="checkbox"/> 欠席	<input type="checkbox"/> 嶋田 喜昭	<input type="checkbox"/> 谷口 庄一	<input type="checkbox"/> 森岡 哲生	<input type="checkbox"/> 大林 香瑞人
	<input type="checkbox"/> 佐々木 雅敏	<input type="checkbox"/> 濱田 常雄	<input type="checkbox"/> 伊藤 慎悟 (代理：富永 正輝)	<input type="checkbox"/> 神谷 孝明
事 務 局 出 席 者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 副市長（参与）稲吉 豊治 ・ 都市建設部長大西 彰 ・ 都市計画課長竹内 千明 ・ 都市計画課主幹齊藤 英樹 ・ 都市計画課統括主任佐藤 友浩 ・ 都市計画課主任富田 寛志 			
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 委員長挨拶 2 第3回策定委員会の実施報告及び将来都市構造図の修正について 【参考資料1, 2, 3, 資料1】 3 議題【資料2】 (1) 地域別構想（現況、課題）について 4 その他 			
公開・非公開	公開			
傍聴者数	0名			
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員長挨拶 嶋田委員長から挨拶があったもの。 2. 第3回策定委員会の実施報告及び将来都市構造図の修正について 【参考資料1, 2, 3, 資料1】 事務局より説明し、下記の審議を行ったもの。 (濱田委員) 新聞記事で、太田川駅西地区を新たな産業や研究開発を進める地区とし、日本福祉大学東海キャンパスを福祉の学術研究都市と位置づけし東海市や企業などとの交流拠点を目指すというものがあつたが、これについては都市計画で位置づけをするのか。 (事務局) 			

当該地区はもともと立地適正化計画でも広域交流機能を位置づけ、土地区画整理事業でも産業・商業系の土地利用を進めている。日本福祉大学を含むエリアで、広域交流の機能を持ちながら教育文化の施設誘致も視野に入れている。立地適正化計画を踏まえて都市計画マスタープランでも位置づけている。

(濱田委員)

新聞記事にあるような、福祉と学術研究都市を目指し、日本福祉大学が東海市とともに交流拠点を作っていくという位置づけは将来の都市計画の中にあるのか。

(稲吉委員)

新聞記事に関して補足すると、一言で言うと広域交流機能についてのこと、都市計画マスタープランでいうところの太田川周辺の都市拠点・広域交流拠点のうちの学術的な部分が記事になったようである。太田川駅西地区 5 つのゾーンのうち学術文化エリアの一部で日本福祉大学が拡張するということから、産学官連携を実現したいという展望だが具体的なプランはないので、学術交流、学術文化というフレーズにとどまっている。大学ではそれを目指したいということであのような記事になったのだと思う。

(嶋田委員長)

この地区の工業に関しては都市計画マスタープランでの位置づけはどうか。

(事務局)

物流企業が進出する予定である。

(嶋田委員長)

それは都市拠点・広域交流拠点と整合するか。

(事務局)

物流と商業も含めて広域交流機能という意味を持たせている。

(嶋田委員長)

全体構想 骨子(案)に記載がないと思われるので、拠点が整合するように検討してほしい。

(事務局)

承知した。

(嶋田委員長)

北東の新市街地候補ゾーン(産業系)の面積はどのぐらいか。

(事務局)

約 56ha である。

(嶋田委員長)

土地利用フレームと関係してくるが、フレームとの関係性はどうか

ているか。

(事務局)

参考資料3の全体構想骨子(案)の29ページで産業系市街地の拡大が必要な面積として約150haを設定しており、この中に含まれる。

(嶋田委員長)

それであれば問題ない。

3. 議題

事務局より「(1) 地域別構想(現況、課題)について」を説明し、下記の審議を行ったもの。

【質疑応答】

(谷口委員)

将来目標で、防災対策や公共交通の充実など、各地域で重複している項目は、市全体の課題といえないか。それらはまとめた上で、地域の中で特に重要な課題を挙げる方がわかりやすいと思う。

(事務局)

将来目標はまちづくりの方針にかかわってくる。重要度の高い項目は、目標を作る参考にした。地域で重要度の高いものを見た上で、各地域の特徴から見えてくる課題やまちづくりの整備方針などで定める部分を具体的に示すという意味で将来目標を設定している。ご指摘のとおり重要度の高い項目は同じものが多いが、将来目標では地域の特徴も盛り込み、強弱や書き方の変化をつけている。

(嶋田委員長)

重要度の高い項目は将来目標を立てるための参考として表記しており、報告書には出さないということか。

(事務局)

そうである。

(谷口委員)

今後掲載する予定の写真は現況か、将来イメージか。

(事務局)

現況の写真を検討している。課題となる写真にするかどうかは検討中である。

(谷口委員)

地域によって違う写真になるのか。

(事務局)

その予定である。地域の特徴がわかるものにする予定である。

(谷口委員)

写真と、重要度の高い項目がリンクするのか。

(事務局)

すべてそうなるかはわからない。課題の写真ばかりにはしない予定である。

(嶋田委員長)

たとえば北部地域だと、緑陽公園など各地域で重要な施設などの写真を載せるイメージか。

(事務局)

そうである。現況の写真であるので、課題とリンクすることもあると考えている。具体的に策定委員会で見てもらうのは次回を予定している。

(谷口委員)

どのような写真になるか早めに教えてもらえれば、現地を見て回ろうと思う。

(嶋田委員長)

そうしていただけるよう、事務局にはお願いしたい。

(大林委員)

安全・安心を掲げているが、伊勢湾台風以降も川はそのままで、東海豪雨でも被害があったが、具体的にはどういうことをするのか。

(事務局)

河川改修が進んでいないのは課題である。大田川の改修は順次進めるなど、各地域の課題を整理して進めるべきとして、都市計画マスタープランでも位置づけている。

(嶋田委員長)

中央地域では「浸水の危険性が高くなっています」と記載しており、課題が書かれていない。文章のトーンが、問題と課題とでまちまちである。～する必要がある、と明記するのが課題の書き方になるように検討を願いたい。

(富永委員)

たとえば北部地域で、満足度の高低と課題の文章で乖離があるように感じるので、両者が関連していることがよりわかりやすいまとめ方をしてはどうか。

(事務局)

北部地域については、市民アンケート調査の現状の満足度でも公共交通について低い項目になっており、循環バスの空白地域があるため、交通手段の不足が現況の課題となっている。これを読み取る資料がないが、現況としては正しいものである。

(嶋田委員長)

課題に関連する現状・地域特性は、箇条書きでも書くべきかと思う。そうしないと現状と課題が整合しない。

(大林委員)

「今後どのように整備する」という記載がないのでわからない。

(事務局)

「今後どのように整備する」の部分はこのあとのまちづくりの方針の中で言及する構成である。

(嶋田委員長)

現状、課題、方針とつながるように検討していただきたい。

(濱田委員)

まちづくりの課題で、「渋滞による企業活動への影響が懸念されています」との記載があるが、一般道路と自動車専用道路での渋滞の影響についてご説明いただきたい。

(事務局)

一般道路でも4車線化を進める必要があるところや、西知多道路でも現状渋滞が深刻な箇所やインターチェンジなど整備を進めていく必要があるという意味である。

(濱田委員)

民間企業の活動への影響とはどういうものか。

(事務局)

渋滞の発生によって運送など、影響が多方面に出てくるということである。

(佐々木委員)

課題を解消するのにも予算が必要なので優先順位があると思う。課題の中で優先度が見えるといいと思う。

(事務局)

今後まちづくりの方針を作成するにあたり、課題に強弱をつけていこうと考えている。

(佐々木委員)

課題の羅列だけでは対策がみえてこない。

(事務局)

都市計画マスタープランは20年の期間での計画のため、なかなか具体的に優先度を定めにくいのが、なるべく強弱がわかるようにしていく。

(嶋田委員長)

「検討」「推進」などの言葉遣いで2~3のレベル分けは必要だと思われる。

(谷口委員)

中央地域では、高齢者割合が高い地域や災害の危険性が高い地域で開発を推進すると読めてしまうが、その解決策はないのか。

(事務局)

太田川駅西地区では土地区画整理事業による盛土を想定している。それらの状況も分かるように記載できるようにしていく。

(谷口委員)

防災などの対策を進めるにしても都市計画マスタープランの20年の計画と開発のスピードが合わないと、安心して整備や開発を進めるのは難しいのではないかと。

(大林委員)

災害に対する市民の意識も変えてもらうことが必要だと思う。市民が主体的に考えることができるようなプランを作ることが必要である。

(佐々木委員)

大田大池と中ノ池のため池は工事して対策が済んでいるのではないかと。

(事務局)

工事・対策は済んでいるが、堤体が決壊した場合の浸水想定区域が定められているということである。

(嶋田委員長)

立地適正化計画で防災指針を作成したが、それを知らない人も多い。全体構想の都市防災対策の方針と整合を図ることが必要であるとは思う。

(大林委員)

災害は想定を上回ってくるので、コミュニティなどで講習や訓練をするなどはどうか。

(事務局)

災害対策についてはご意見を担当課とも共有しておく。

(嶋田委員長)

どの計画でもわかりやすく住民に伝えることが大切である。

(神谷委員)

南部地域の産業活性化の土地利用というイメージがわきにくい。

(事務局)

知多半島道路に繋がる瀬戸大府東海線などの幹線道路沿いで産業系の土地利用が想定される。産業系の土地利用フレームでは、保留フレームを設定しており、この辺りはそれに該当してくる可能性もあるため、課題に挙げている。

(神谷委員)

保留フレームで想定する場所はゾーニングには表れないのか。

(事務局)

そうである。

(神谷委員)

南部地域での産業の活性化の土地利用を他の地域の課題と同じトーンで扱うのは、表現の違いかもしれないが、もう少し上手く整理して表現できないかと思う。

臨海部地域の土地利用がすすんでいないという表現の意図は何か。臨海部地域は既に工業用地として使われていると思うが。

(事務局)

臨海部地域については、名和駅西地区で田畑などの農地があるためこのような表現にしている。

(嶋田委員長)

臨海部というと全体をイメージしてしまうのではないか。

(事務局)

限定的な地区の課題だとわかるような表現にする。

(佐々木委員)

これだけ多くの課題を挙げるのはどうか。ある程度整備が進んでいるものに関しては挙げる必要性がないのではないか。

(事務局)

地域別構想を12地域から5地域に再編すると、前回よりも1つの地域に集約されるので様々な課題が挙がることになる。

もちろん優先順位はあるが、精査した結果これだけの課題があるというのが現状である。

(佐々木委員)

課題を羅列すると市民は不安になるのではないかと思う。

(大林委員)

20年先を見据えた計画なので見落としのないようにする必要はある。

(嶋田委員長)

可能性のあることは記載してよいが、強弱はつけるべきと考える。

(稲吉委員)

課題の表現に関しては、行政がやるべきものと民間事業者に任せるもの、また行政が誘導することなど、違う性格のものがあるので表現を工夫するとよいと思う。

(濱田委員)

①の次に(1)で、その次に①がまたきているので、章立ての修正をお願いしたい。

(嶋田委員長)

今後のスケジュールを伺いたい。

(事務局)

第5回は全体構想から地域別構想まですべて網羅した状態でまちづくりの方針を協議いただく。第6回はパブリックコメントの結果を踏まえ

<p>た、計画書全体の協議をいただく。</p> <p>(嶋田委員長)</p> <p>本日の議題で各地域の将来目標については、ある程度議論が必要であるが、他に意見があるか。</p> <p>(谷口委員)</p> <p>具体的な駅名やコミュニティバスの名称、公園名などを書いた方が地域の特性が明確になるのでよいと思う。</p> <p>(嶋田委員長)</p> <p>同意である。</p> <p>(事務局)</p> <p>10月からはじまる地域別説明会でも将来目標を説明する予定である。地域からの意見も踏まえ、より具体的なものになるかもしれない。</p> <p>(嶋田委員長)</p> <p>地域説明会での意見も本編に入れる方がよい。</p> <p>次回は計画書の一通りの提示を事務局にはお願いしたい。</p> <p>本日の議題は以上である。</p> <p>4. その他</p> <p>事務局から今後のスケジュールを報告したもの。</p>
--